

## 伏見稲荷:全境内名所図絵

伏見稲荷大社は海外からも多数の旅行者が訪れ、京都を代表する観光地となっています。祭礼の日は普段にも増して多数の参拝者で賑います。伏見稲荷大社は初詣の賑わいが一段落すると、二月の節分祭、初午大祭で賑います。特に初午大祭は「京洛初春第一の祭事」と言われ、多くの人々が訪れます。この祭事は、和銅4(711)年2月の初午の日、稲荷大神が稲荷山の三ヶ峰に鎮座したという伝承に因みます。なお、2016年は2月6日が初午の日にあたりました。

さて、稲荷山は社殿とともに江戸時代以来、『[都名所図会](#)』などに描かれてきました。近代には吉田初三郎の手により鳥瞰図『[伏見稲荷:全境内名所図絵](#)』として、大正14(1925)年に折本で出版されました。蹴上から伏見桃山までが一枚に収まり、中央に稲荷山が描かれています。本殿から千本鳥居を経て三ノ峰、二ノ峰、一ノ峰と続く山頂への道は階段や途中の社殿も丁寧に描かれています。稲荷山で道に迷うと京都の人はキツネの仕業にすることがありますが、この鳥瞰図があればキツネに化かされることもなさそうです。

一方、境内の外に目を転じると、稲荷山以北の東山三十六峰には、主要な社寺が描かれています。すぐ北側にある東福寺の表示がありません。稲荷に主題を置きすぎたために忘れられたのかもしれませんが。一方、南には五百羅漢の石仏で有名な石峰寺が描かれ、小さいながらも石仏の姿が見られます。また、東海道線、奈良線には6両編成の客車が機関車に引かれ、京阪電車も2両編成で描かれています。伏見街道にはクラシックな自動車が走っています。近代を象徴するものを描き込む、初三郎鳥瞰図の特徴がここでも見られます。



(2016 年 2 月 22 日公開)